

今でしよう

自分は、ビッグ・イシューに出会までは、ホームレスでした。都内の公園で、寝泊っていました。これからの生活を立直そうと思い、今でしようと、思いました。事務所をたづね働こうと思いましたが、面接をうけその日から販売をやる事になりサーポとの人と新宿西口三井ビルの前に行き販売やりの指導を受け初日とになりました。19の号で表紙は、宮本亜門さんと、東田直樹さんの号でした。今は、イシューを販売を始め3年6ヶ月になりました。毎日販売に励んでいます。イシューの代表スタッフ、お客様の温かい言葉自分は、人に恵まれ毎日仕事が生かいです。今でしようと思っただのは、駅に夕方仕事帰りのさまさまな人が家路に帰って行くの見てみじめさ、さみしさ今は、何でもいから仕事を見つけて働こうと思いつつ年も60才中で住所もなくある日都庁の炊出しの時、イシューのスタッフの販売の募集を見てこれしかないと思っ

事敏祈申込みました。販売をしていっかは、
ふとんで寝たいと思ひ毎日休まず頑張りました。
た。祈願がかない自立する事が出来ました。
思い返ば色々な出来ごとがあり、お客様の思ひ
いやりの言葉がとも勇気なり涙が出る事もあり
ありました。一番はメディアに出た事です。イ
シユ一の東京代表、スタッフのおかげです。あ
かとうございしました。今は毎日初心忘れず人
に思ひやりが自分の基本です。販売で毎日む
くめれています。今でしよう思ったのは、心
の叫びだと思っています。

吉澤豊二

講評（星野）

まさに「心の叫び」ですね。その叫びに耳を傾けることができた吉澤さんに、敬意を覚えます。お客さんたちもそう感じたのだと思います。だからこそ、自立に至れたんでしょうね。おめでとうございます。厳しい状況でも、必ず転機はあって、自分に素直になればその転機を見逃さずに捕まえることができるのかもしれないね。